

平成 10 年 8 月 28 日

# 大気汚染情報をリアルタイムで 環境情報システム稼動、庁舎ロビーに表示装置設置

豊島区では、区内 3 ヶ所の測定室の大気汚染測定データをリアルタイムで区民に情報提供する「大気汚染常時監視及び環境情報システム」を 9 月 1 日より稼動する。

このシステムは、巣鴨、池袋、長崎の各測定室(局)の測定装置と区役所環境保全課のパソコンとを通信回線で結び、大気汚染などの測定データを環境保全課のパソコンに取り込み、わかりやすい形にデータ処理・加工して、表示装置を介してリアルタイムの情報を区民に提供するというもの。区役所庁舎 1 階ロビーに設置された表示装置は、21 インチ画面のタッチパネル形式で、誰でも簡単に操作できる。大気中の二酸化窒素、オキシダント等の時間毎の測定データがパネル画面の豊島区地図上に表示される。解説のキャラクターは区職員が描いたイラストで親しみやすく、文章も小学生にも理解できるよう分かりやすく書かれている。

また、リアルタイムの大気汚染データの他に、地球環境問題や公害対策などの環境情報も提供していく。温暖化、酸性雨等地球環境を考える上での基礎的な情報や、低公害車や今話題のダイオキシンに関する情報等が各メニューに組み込まれており、画面をタッチするだけで様々な情報を得ることができる。こうした情報の中には、区民が「かんきょう観察員」として参加した「二酸化窒素調査」「酸性雨調査」や桜の咲きはじめやセミの鳴きはじめ等を調べる「生物季節調査」の結果も活かされている。また、「環境クイズ」のメニューもあり、コンピューターがアトランダムに出す 5 問に答え、正解率によって環境に関する認識度をチェックするもので、楽しみながら環境について学ぶことができる。

システム表示装置の設置は、豊島区では今回が初めてだが、今後も区役所庁舎以外の区施設などに設置していきたい意向。また、将来的には、システムの内容をコピーし、学校での環境学習教材として活用することもできる。

数日後に迫ったシステム稼動に向け、データ調整に余念のない担当職員は、「身近な豊島区の環境を気軽に知ってもらえれば…」と抱負を語った。

## 詳細:環境保全課